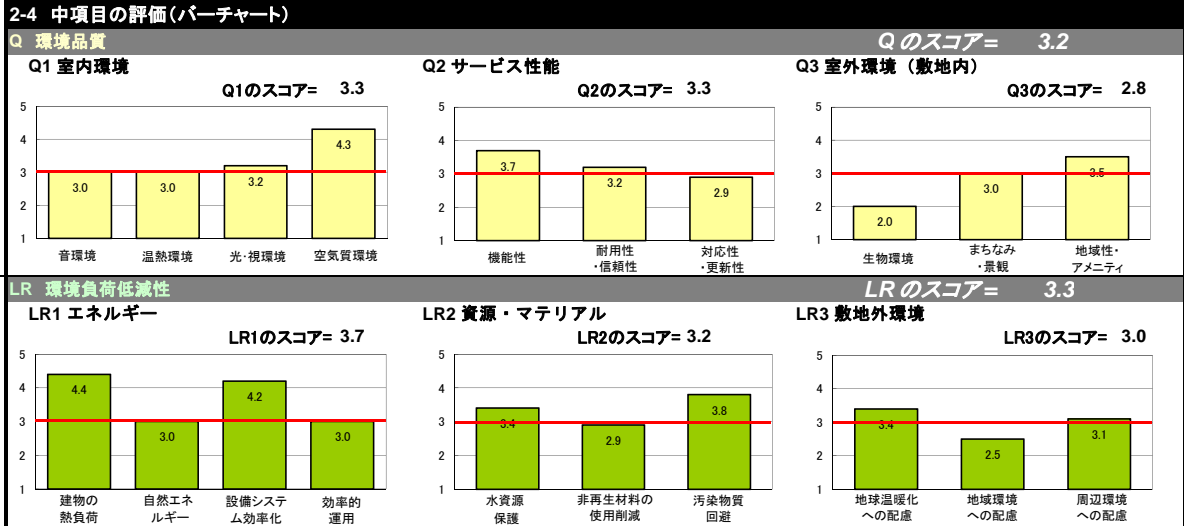
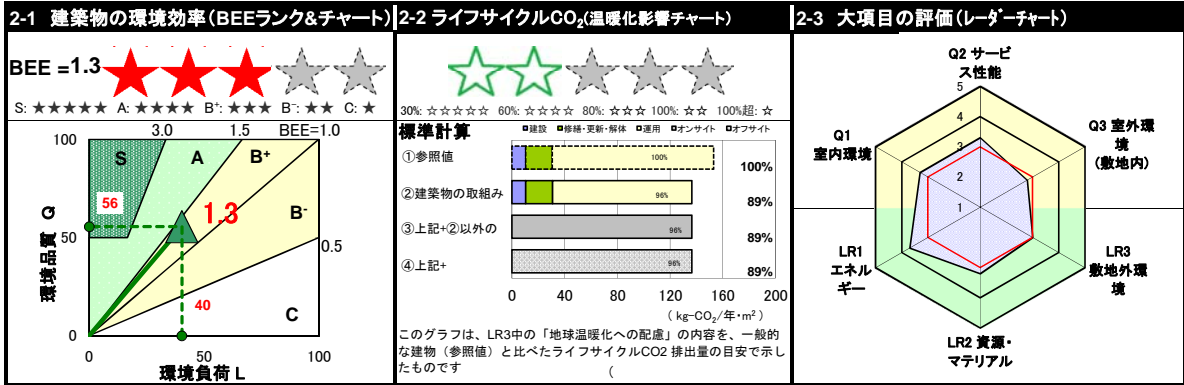


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	特別養護老人ホーム第Ⅱあま恵寿荘	階数	地上4階
建設地	愛知県あま市坂牧向江20,21,22,23,2	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、法22	平均居住人員	170人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年7月 予定	評価の実施日	2014年11月5日
敷地面積	4,145.08 m <sup>2</sup>	作成者	白崎 植希子
建築面積	1,727.98 m <sup>2</sup>	確認日	2014年11月6日
延床面積	5,720.60 m <sup>2</sup>	確認者	藤田 功一



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">24.4 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>70-リング 西垣林業住宅事業部: あいち県産材 ヒノキフローリング</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>									<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>									
1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	1.00		
2 設備騒音対策				-	-	-	-		
<b>1.2 遮音</b>									
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
<b>1.3 吸音</b>									
				3.0	0.20	3.0	0.20		
<b>2 温熱環境</b>									<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>									
1 室温				3.0	0.50	3.0	0.50		
2 負荷変動・追従制御性				3.0	0.38	3.0	0.57		
3 外皮性能				-	-	-	-		
4 ゾーン別制御性				3.0	0.25	3.0	0.43		
5 温度・湿度制御				3.0	0.38	-	-		
6 個別制御				-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-		
8 監視システム				-	-	-	-		
<b>2.2 湿度制御</b>									
				3.0	0.20	3.0	0.20		
<b>2.3 空調方式</b>									
				3.0	0.30	3.0	0.30		
<b>3 光・視環境</b>									<b>3.2</b>
<b>3.1 昼光利用</b>									
1 昼光率				3.2	0.25	3.1	1.00		
2 方位別開口				3.8	0.30	4.2	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.60	5.0	0.60		
<b>3.2 グレア対策</b>									
1 照明器具のグレア				5.0	0.40	3.0	0.40		
2 昼光制御				3.0	0.30	4.0	0.30		
3 映り込み対策				-	-	-	-		
<b>3.3 照度</b>									
1 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
<b>3.4 照明制御</b>									
1 照明制御				3.0	0.25	1.0	0.25		
<b>4 空気環境</b>									<b>4.3</b>
<b>4.1 発生源対策</b>									
1 化学汚染物質				4.4	0.25	4.2	1.00		
2 アスベスト対策				5.0	0.50	5.0	0.63		
3 ダニ・カビ等				5.0	1.00	5.0	1.00		
4 レンオネラ対策				-	-	-	-		
<b>4.2 換気</b>									
1 換気量				3.0	0.30	3.0	0.38		
2 自然換気性能				3.0	0.50	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4 給気計画				-	-	-	-		
<b>4.3 運用管理</b>									
1 CO <sub>2</sub> の監視				5.0	0.20	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-		
				5.0	1.00	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>									<b>3.7</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>									
1 広さ・収納性				3.4	0.40	4.6	1.00		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.40	5.0	0.60		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	3.0	-		
<b>1.2 心理性・快適性</b>									
1 広さ感・景観				4.0	0.30	4.0	0.40		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	4.0	0.50		
3 内装計画				4.0	1.00	4.0	0.50		
<b>1.3 維持管理</b>									
1 維持管理に配慮した設計				3.5	0.30	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務				4.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>3.2</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>									
1 耐震性				3.2	0.31	-	-		
2 免震・制振性能				3.0	0.48	-	-		
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>									
1 躯体材料の耐用年数				3.6	0.33	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				5.0	0.23	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				5.0	0.09	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-		
				3.0	0.23	-	-		

2.4 信頼性				3.0	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.1	0.29	2.6	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり				3.4	0.31	2.2	0.50	
1 階高のゆとり				3.0	0.60	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 別途資料添付	4.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30			3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④	フローリングに愛知県産材ヒノキフローリング採用・・仕上表2	4.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建築物の熱負荷抑制			BPI=0.858	4.4	0.30			4.4
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			BEI=0.864	4.2	0.30			4.2
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.2				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水コマ・節水型便器使用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63			2.9
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●			3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.8	0.22			3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない接着剤・塗料を使用(仕上表1)	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68			
1 消火剤			不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33			
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33			
3 冷媒				3.0	0.33			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	浸水被害等への対策として透水性舗装を採用	3.4	0.33			3.4
2 地域環境への配慮				2.5	0.33			2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●		出入り口3か所、駐輪場18台、駐車場48台。配置図参照	4.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明は行っていない	4.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

特別養護老人ホーム第Ⅱあま恵寿荘 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.7\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.4</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>3.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>全室個室のユニット型の特養。プライバシーが保たれた空間を提供。その中でも、約半数程度の居室にWCを設置し、よりアメニティの充実に努めた。また、大きな窓に面した共同生活室も広々としたリビング・ダイニングとして利用いただける。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建物全体にバルコニーをまわし、室内側にはブラインド・カーテン等を設置する事により、室内環境の向上に努めている。また、ユニット内居室はルームエアコンの採用により、利用者のニーズに合致させやすくし、寒冷期は床暖房(共同生活室)の採用により、空気の乾燥を防ぐ。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>全館バリアフリーはもちろん、ユニット内の居室WCを約半数程度設置し、より利用者のプライバシーに配慮した。</p> <p>災害時には、地域交流スペースや講義・研修室に近隣の住民の避難の受け入れにも対応可能。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地東側の道路幅員が狭いため、50cmセットバックしたところでフェンスを設置し、道路幅員の拡幅に協力。敷地南側の隣地との間には、庭(緑地帯)を設置し、近隣住民に配慮した。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>LED照明器具を多く採用し、電力の省エネ化に努める。またマイクロジェネの採用により、省エネを図る。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>節水型便器の採用により、節水対策を行っている。また、汚染物質含有材料の使用回避する。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>周辺環境への配慮として、騒音の発生する機械は全て屋上の機械置場に設置し、騒音管理をする。地域環境への配慮としては透水性舗装の採用により、浸水被害等への対策としている。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>